

平成 25 年度事業計画（案）

■NBC存在理念

ニュービジネスの振興を図ることにより、国民経済の健全な発展に寄与する。

■NBCビジョン

事業創造と企業革新

■スローガン

成長したいならNBC！ 突破したいならNBC！

NBCは、ニュービジネスに関係した初の経済団体として1985年に設立され、歴史ある団体として継承されている、積極果敢にイノベーションにチャレンジする経営者の集団です。以来、30年近い年月を経て、「NBCとはどのような団体なのか?」、「何を実現する組織なのか?」など、今の時代に合致するビジョンを改めて明確化させる為に、今年の夏よりビジョン特別委員会を設け、熱い議論を重ねて参りました。

また、ニュービジネスの意味についても議論がなされ、ニュービジネスとは、「新しい価値を創造し提供している、或いは事業創造と経営革新を行っているビジネス」と定義づけられました。

そして、NBCが果たすべき役割は、この「事業創造」と「企業革新」である、という結論に達しました。これらは、経営者等個人に背負わされた十字架とも云えます。

各企業には、それぞれの、今の「課題」があります。中小・ベンチャー企業等を中心としたNBC会員は、それ故に、商品の、組織の、情報等の差別化・特徴化を促進し、新しい価値を創造する企業イノベーションを継続しなければなりません。経営者には、絶えないその情熱が不可欠です。NBCは、この情熱を、エネルギーを、「突破力」と表現し、新たなスローガンとしました。

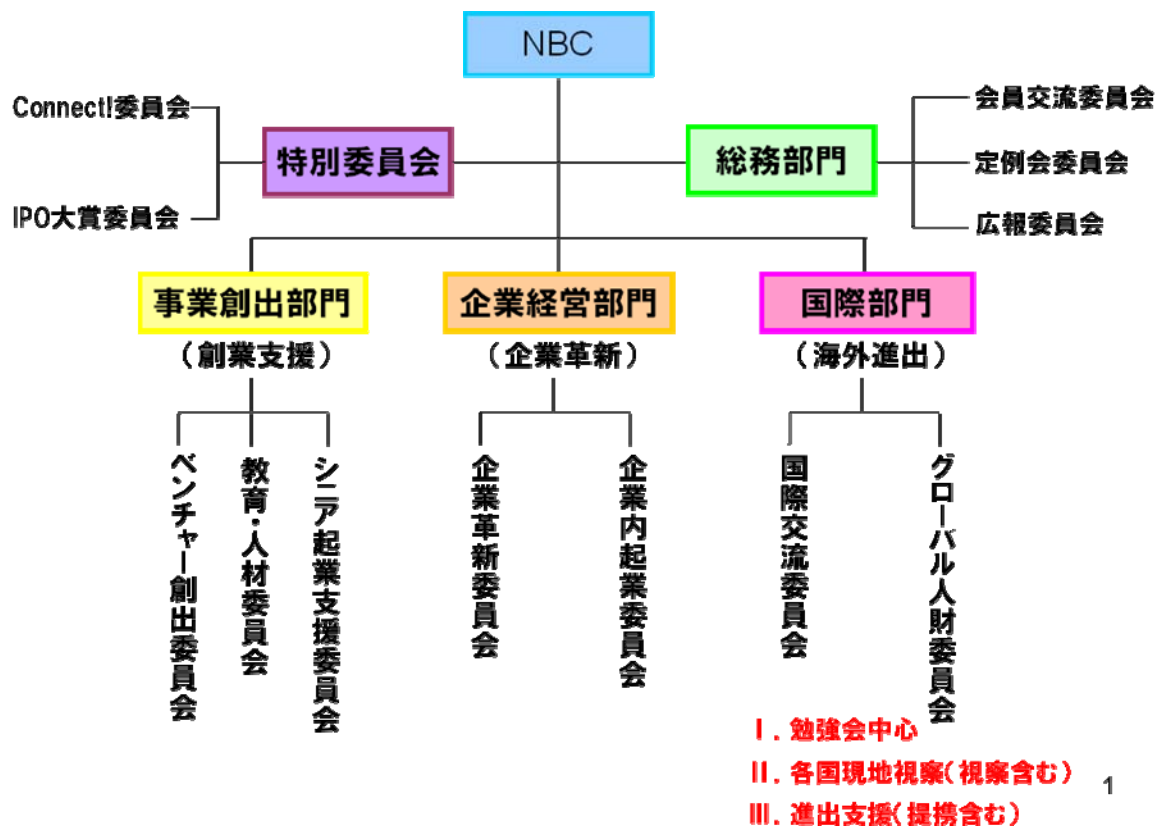
一方、NBCは、委員会活動を主事業としています。勉強会等に受動的に参加するだけでなく、積極的に委員会の活動の内容を企画したり支援したりするこの委員会活動は、人脈

形成のみならず、自らの成長と、その後続く企業の成長を果たす「学びの場」でもあります。委員会の活動を体験するその一步一步が、己の成長を通じた企業の成長発展に繋がり、結果として地域経済の、日本経済の活性化にも寄与します。

成長したい、突破したい、これらを支援する組織が、NBCです。現状に満足しない、常にイノベーションを実践する強い意志が、NBC会員の証です。

本年度は、ビジョンを実現するためのアクションとして、下記の部門・委員会構成と致しました。

活動を円滑に、効果的に行う為、積極的に他団体とのアライアンスも実施し、会員の満足度の向上のみならず、対外的にも、規制緩和等の政策提言をはじめ、ニュービジネスを推進する啓発活動に取り組み、NBC組織の拡充・発展を目指します。



I. 委員会・部会等の活動基本骨子

委員会の構成は、別添組織図の通りとし、副会長合議体、部門等の役割は以下の通りとする。又、研究部会の扱いは従来並とするものの、申請時のみならず活動の継続性についても審査し、一定人数以上による継続的運営を重視する。

(1) 組織構成

全体を4部門、2特別委員会とする。

(2) 副会長合議体

①会長の下、委員会運営全体の総括は副会長の専管事項として、5名の合議（統括は庄司正英副会長、補佐 上島規男理事）で運営する。

②合議体には、それぞれ1名のアドバイザーを配置する。

(3) 部門

部門には担当副会長を置き、所属する委員会の運営に携わると共に、部門を管掌する。

(4) 特別委員会

特別委員会は、部門に属さず、それぞれ独立したプロジェクトを遂行する。

II. 委員会・研究部会等事業計画

1. 副会長合議体のミッション

(1) ブランド力向上

①シニア、②女性、③学生（啓発・インターンシップ）、④若者、⑤海外、のキーワードに特化し「このキーワードならNBC」と謂われるまでの見識と行動力を備え、対外発信していく。

(2) 会員増強

①人脈中心の会員増強から徐々に脱却し、ビジョンに基づくブランド力を背景とした会員増強の仕組み作りを模索する。

②合議体直轄の担当理事として、三ツ谷佐代子理事と中島誠二理事を置く。

(3) 政策提言

各委員会での検討事項を部門経由で吸い上げ、NBCに相応しいテーマを抽出し、委員長等を交えて提言を作成する。

2. 委員会活動

(1) 企業経営部門<担当：西村 剛敏 副会長>

NBC ビジョンの一つである「企業革新」について、全般的に取り組む部門。自らの企業を良い企業として、存続・発展させていくためには、どうすればよいか、企業の成長と変革について実践的に学ぶ。

①企業革新業革新委員会<委員長：山家 一繁 理事>

時代は確実に変化している。規模の大小を問わず、経営者の能力で企業業績は全く違うものになる時代に変化してきた。一流の経営者として時代の変化を感じる感性のアンテナに磨きをかけ、品格を身につけ、社会貢献度が高い 100 年継続出来る優良企業の創造に積極的に取り組む経営者を育てると共に、企業の成長に結びつく実践的な学びの場とする。

②企業内起業委員会<委員長：大塚 雅樹 理事>

「企業革新」の一つの手法として、企業の生き残りをかけた、新たな成長エンジン創生の有力手段である企業内の経営資源を生かした「企業内起業」を抽出して、その手法と成功事例を学ぶ。

(2) 事業創出部門<担当：田中 豊 副会長>

「未来の起業家の創出」を目的に、あらゆる世代の「創業意識」を高めるため、起業家としてのロールモデルを具体的に示し、起業を考える人のメンターとなるような活動を行う。

①ベンチャー創出委員会<委員長：永瀬 俊彦 理事>

特に学生の創業意識を高めることに注力し、「学生会員制度」を整備し、実行する。未来の NBC 会員を育成する。

②教育・人材委員会<委員長：山尾 百合子 理事>

学校への経営者講師派遣事業や、インターンシップを通し、自立できる学生・社会人を育成する。

③シニア起業支援委員会<委員長：与謝野 肇 特別理事>

シニアの起業を啓発、支援する。

(3) 国際部門<担当：深沢 栄治 副会長>

～We are the world～ を合言葉に、海外進出とグローバル人材の視点から、情報を発信し、NBC 全体の国際化を推進する。

①国際交流委員会<担当：深沢 栄治 副会長>

「志を共有するグローバルな企業人ネットワークづくり！」

「中小企業の進出支援制度の徹底活用！」を目指して、日本と世界をつなげる。

②グローバル人財委員会<担当：高橋 ゆき 理事>

「リボーン グローバル (RebornGlobal)」を合言葉に、企業・経営者・人材のすべてが、グローバルな視点を持って自立しスピード感をもって生まれ変わることミッショントする。和僑会との協力体制を強化しつつ、昨年も開催した内外起業家と学生を集めた「グローバル人材フォーラム」を今年度も開催する。

(4) 総務部門<担当：湯川 智子 副会長>

NBC の活性化を担当する横断的な部門として、NBC ビジョンを軸に会員交流、広報を管掌し、従来の女性経営者の集いやビジネスマッチング、対外交流等についても包含する。広報では、特に対外広報に注力する。

①会員交流委員会<担当：坂田 生子 理事>

合宿、クリスマスパーティ、昼食会等、全会員を対象にした交流イベントの企画運営にあたりると共に、対外交流の起点ともなる。

②定例会委員会<担当：星野 晃一郎 理事>

定例的な会員交流の場である、定例会の運営に携わる。定例会の中身については、各委員会が持ち回りで企画し、実施は定例会委員会と共同で行う。

③広報委員会<担当：秋元 義彦 理事>

広報誌「ブリテン」(年1回)の発刊やWeb会報「NaBiC」を通しNBCの活動を内外に向け発信する。今年度、課題となっている対外広報については、NBC ビジョンを背景にその強力な推進を図る。

(5) 特別委員会<担当：庄司 正英 副会長>

特別委員会は、広く社会一般のための公益活動として、日本におけるニュービジネス創出・発展の啓発活動を行うことを目的として設置する。活動を通じて、NBC のブランド向上にも寄与する。

①Connect!委員会<担当：剣持 忠 理事>

オープンイノベーションを促進することを目的に、独自のサービス・技術を持つベンチャー、大企業、ベンチャーキャピタルの交流会、事例勉強会を隔月で実施(30人規模)すると共に、気運を高めるため、年1回300人規模の交流会を行う。経済産業省とのコラボレーションにも積極的に取り組む。

②IPO大賞委員会<担当：熊崎 友久 理事>

第8回を迎える「IPO大賞」の選考、及び受賞企業を祝し、IPOをする起業経営者の増加を触発するような表彰式の企画・運営を行う。

3. 研究部会活動

申請については、従来通り申請者が5人の賛同者を募り計6人による申請とする。しかしながら、部会の存続については、①年4回以上開催すること、②平均出席者数が6人を下らないこと、とし、この条件が満たされない場合は存続について再検討する。現在、申請があがっている研究部会は以下の通り。(申請順)

(1) 人間力研究部会 (部会長：奥寺 邦俊 (有)オーエフピー 社長)

(2) 囲碁研究部会 (部会長：米窪 正一 システムクリエイト(株) 社長)

新設 (3) 社会貢献SNSビジネス研究部会

(部会長：佐藤 勝 (株)ツインプランニング 社長)

(4) ソーシャルビジネス研究部会

(部会長：田中 勇一 リソウル(株) 社長)

(5) 若手経営者が経営力を高め、自社の業績を上げる研究部会

(部会長：藤田 陽司 (株)シーティーイー 社長)

新設 (6) 「スポーツ振興」「地域振興」研究部会

(部会長：(有)シーエスサービス ぬでじま えいじ)